



日本 HP 主催
オンラインセミナー
配信レポート

HP Partner Fast TV 第 16 回 テレワーク時代に生産性向上と セキュリティの両立を図るには？ HP とインテルが語る、 在宅勤務時に必要なテクノロジー



7月16日、日本HPオンラインセミナー「HP Partner Fast TV 第16回 テレワーク時代に生産性向上とセキュリティの両立を図るには？ HPとインテルが語る、在宅勤務時に必要なテクノロジー」が配信された。

同日、ライブストリーミングされた番組では、リモートでの参加となったインテル株式会社 セールス&マーケティンググループ CCGセールス エンタープライズテクニカルセールススペシャリスト佐近清志氏、およびNVMソリューション・グループ・セールス ストレージ・ソリューション・アーキテクト 松村 浩氏。日本HPからはパーソナルシステムズ事業統括 サービス・ソリューション事業本部 技術本部の鈴木 学が登壇した。

2020年に起こったパンデミックにより、テレワークへの準備が不十分でないまま在宅勤務での事業継続を余儀なくされた企業も多かった。近年の「働き方改革関連法」の施行により社内の環境整備に動き出す企業も少しずつ増えてきていたものの、多くが不安を抱えながらの急なテレワーク運用を余儀なくされ、社員としては自宅環境下での生産性の維持、管理者としてはデバイス管理やセキュリティに関して課題を覚えるケースも見受けられていた。

このような状況の中、日本HPとインテルがテレワーク環境下で役立つテクノロジーについて語り、それらがHPが投入する製品群に活かされていることを分かりやすく解説していった。今回は、当日登壇した3名のスペシャリストによる講演内容の概要を紹介していく。

HP Partner First TV 第16回 当日のアーカイブ映像はこちら





株式会社 日本HP

パーソナルシステムズ事業統括
サービス・ソリューション事業本部 技術本部

鈴木 学

はじめに登壇した日本HP 鈴木氏は「オフィスから自宅へと働く環境が移行したことにより、新しい働き方を感じる人が多くなった。引き続きリモートワークを希望する人は59%となり、在宅勤務でのセキュリティの重要性を感じる人も72%と多い。リモート会議が増加したという人は45%と高い数値となっている」と、HP調べによる現状認識について説明。いわゆるニューノーマルと呼ばれているこれからの在宅勤務には、「生産性」「利便性」「運用・管理」「セキュリティ」という課題があると語った。

生産性、利便性という課題に対してはHPが投入するPC製品群を中心に、USB-C接続によってケーブル1本で給電、インターネット接続、画面が映し出せるEliteDisplayシリーズや、軽量コンパクトな14インチモバイルディスプレイ「HP EliteDisplay S14」をはじめ、ディスプレイの背面にセットできる持ち運び可能な超小型高性能デスクトップPCなど、柔軟性の高い製品の組み合わせで十分以上に対応が可能と話した。

また、セキュリティ、運用管理については、基盤上のチップとしてPC製品へ物理的に搭載されている「HP エンドポイント セキュリティコントローラー」による復元力の機能を紹介。「BIOSを含むシステムフラッシュ全体の復元が可能な“HP SURE START”、Windowsの重要なセキュリティプロセスの復元が可能な“HP Sure Run”、遠隔地にあるPCからでもネットワーク経由で、安全にOSを復旧できる“HP Sure Recover”などがあります」と鈴木氏は解説した。

さらにメール添付による悪意ある攻撃などに対応できるセキュアブラウジングソリューション「HP Sure Click」についても言及し、「この技術はインテル® VT（バーチャライゼーション・テクノロジー）をベースにしており、PCからハードウェアレベルで隔離された仮想マシンの中で添付ファイルを開く

ことにより、PCにダメージを与えることなく中身を確認できます」と説明。インテルとHPのテクノロジーの融合によって実現している機能の一例として、テレワーク環境での有効性をアピールし、これらの技術が内包されているHP製品群のテレワーク環境での優位性を語った。



HP エンドポイント セキュリティコントローラー

独自のハードウェアがデバイスに復元力を与える

- 物理的に隔離されている
- 暗号化による安全

第三者機関による認証
認定された独立検証機関による認証
(ANSI/ISECによる監査)



HP Sure Start



HP Sure Run²



HP Sure Recover



インテル株式会社

セールス&マーケティンググループ CCGセールス
エンタープライズテクニカルセールススペシャリスト

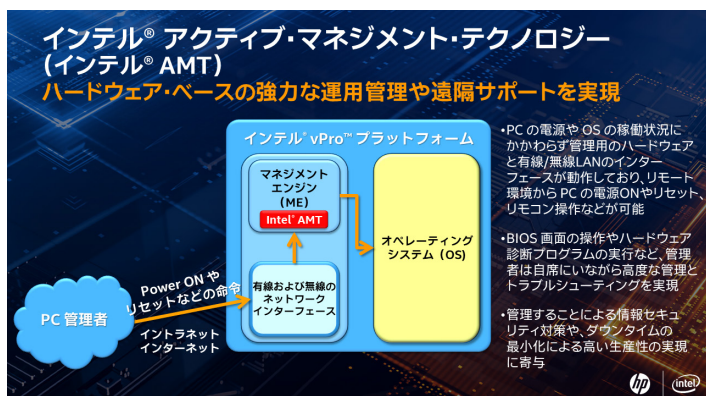
佐近 清志氏

つづいてインテル佐近氏は「Intel vPro[®] プラットフォーム 最新の端末運用管理」と題して最新のIntel vPro[®] プラットフォームを解説した。冒頭、佐近氏は、テレワーク環境下でのIT担当者が抱える悩みについて「セキュリティ対策」「リモートでの運用管理や遠隔サポート対策」「従業員の生産性の維持」の3点をあげ、「これらを解決するにはテレワークに適したPCの採用が重要になってきます」と解説。

進化した第10世代インテル[®] Core[™] vPro[®] プロセッサが、これらの課題をクリアするための機能を提供すると話し、「3年前のノートパソコンと比較し、アプリケーションパフォーマンスが最大40%、オフィスの生産性も最大36%の向上を果たしています。またデスクトップパソコンでは、5年前のモデルと比較し、データ分析と視覚化で最大44%の向上を果たしています。」

と、今回のテーマで注目の高い「社員の生産性の維持・向上」について具体的なデータを示した。続いて、ハードウェアベースの強力な運用管理や遠隔サポートを実現する「インテル[®] アクティブ・マネジメント・テクノロジー（インテル[®] AMT）」について触れ、「これまでは企業内ネットワークでのみ、PCの電源がオフになっていたり、OSがダウンしたりしている場合に、PCにリモート接続して、修復、保護することが可能でしたが、2019年にリリースされたクラウドベースの無償ソフトウェア インテル[®] エンドポイント・マネジメント・アシスタント（インテル[®] EMA）を使用することで、企業外ネットワーク上のPCにおいても、クラウド経由でインテル[®] AMTの機能を使用することが可能となりました。」とテレワーク環境下での有効性を指摘した。

「インテル[®] EMAによって、これまでよりシンプルでありながら非常に広範囲でインテル[®] AMTによるエンドポイント運用管理を実現します。Intel vPro[®] プラットフォームなら、テレワーク環境下でも、PCの効率と稼働時間を低下させることなく、企業資産を保護しながら、従業員のつながりと生産性を維持できます」と語り、第10世代インテル[®] Core[™] vPro[®] プロセッサにより、企業のテレワーク環境に最適な機能を提供できることをアピールした。





インテル株式会社

NVMソリューション・グループ・セールス
ストレージ・ソリューション・アーキテクト

松村 浩氏

最後に登壇したインテル松村氏は、「インテル® Optane™ メモリー H10 & ソリッドステート・ストレージ ~最高の「現実性能」を提供する SSD ~」と題して、インテルの最新ストレージソリューションを紹介。「ひとつのパッケージに Intel® Optaneと3D NAND テクノロジーである Intel® QLCが組み合わさることにより超高速大容量を実現したSSDです」とOptane H10の概要を説明した。

日常の業務において如何にサクサクとPCが動くかを測定するにはSSDの「ピーク性能」ではなく、日常よく使うデータへのアクセスを基準にした「現実性能」が大切だという松村氏。「インテルでは実際のPCの使われ方を分析した結果、一般的なアプリケーションではリード・ライトが混在している状況で使われることが多く、ビジネスユーザーは1時間に3つのアプリケーションを開き、62個のバックグラウンド・アプリケーションを走らせています」と現状を分析した。

さらにほとんどのアプリケーションはキューが浅い部分で起動していることについても指摘。「大部分のアプリケーションは瞬発力型であり、ピーク性能を計ることに特化している従来の一般的なベンチマークソフトでは現実性能は測れません」と語った。

昨年末にリリースされたストレージベンチマークソフト「CrystalDiskMark」の最新版「CrystalDiskMark 7.0」、を使って、実際に現実性能が測れるベンチマークソフトで従来のインテル製SSDとOptane H10を比較。その結果、現実性能では従来のSSDよりも約60%高速になっていることを

証明した。「インテル® Optane™ メモリー H10は、在宅勤務時のストレスフルな環境でも高い生産性を実現します。ビジネスで最高の現実性能を実現するSSDです」と話し、Optane H10がPC利用者の実操作環境の中で優れた機能を提供し、テレワーク環境下での生産性向上に役立つことを語った。

インテル® Optane™ メモリー H10 & ソリッドステート・ストレージ

「超高速」「大容量」
二つのSSDが一つのパッケージに

intel OPTANE 次世代メモリー技術でストレスフリーのPC生活を

インテル® QLC 3D NAND テクノロジー 写真も動画も保存できる最大1TBの大容量

最高の「現実性能」を提供するSSD

実際のビジネスに求められる「現実性能」とは？

リード・ライトの混在 マルチタスク キューの深さ(QD)

70/30 大部分のアプリケーションにおけるリード・ライトの比率

一般的なビジネスユーザは1時間に3つのアプリケーションを開く

一般的なアプリケーションの起動

大部分のアプリケーションは「瞬発力型」が重要
一般的なベンチマークは「現実性能」は測れない

Crystal Disk Mark 7.0でみる「現実性能」

プロファイル: 現実性能+mix

項目	Read (MB/s)	Write (MB/s)	Mix (MB/s)
SSD1M (Intel® SSD 760p - 512GB)	2114.75	1479.77	1445.92
SSD1M (Intel® Optane™ Memory H10 - 512GB)	1239.00	481.71	656.09
SSD1K (Intel® SSD 760p - 512GB)	23.38	139.32	74.73
SSD1K (Intel® Optane™ Memory H10 - 512GB)	159.24	124.72	117.04
SSD4K (Intel® SSD 760p - 512GB)	5708.74	34014.16	18243.65
SSD4K (Intel® Optane™ Memory H10 - 512GB)	38876.46	30448.49	28574.22
SSD4K (Intel® SSD 760p - 512GB)	174.50	29.21	54.65
SSD4K (Intel® Optane™ Memory H10 - 512GB)	25.56	32.68	34.83

インテル製の従来型SSDとH10を比較して
H10が約60%高速

参考URL) HP tech tour Intel® Optane™ (Japanese) ※Optane H10比較動画
<https://www.youtube.com/watch?v=am05BHPo69w>

